日本緩和医療学会
緩和ケア普及啓発活動について

日本緩和医療学会委託事業委員会
委員長 上村 恵一
(市立札幌病院 精神医療センター)

厚生労働省委託事業

JSPM
日本緩和医療学会

Orange Balloon Project

平成26年度緩和ケア普及啓発事業の取組み

- プレスセミナー（メディア向け勉強会）

  大阪（2014/12/1）、東京（2014/12/10）
- 厚生労働省内記者会見（2015/1/23）
- 市民公開講座

  東京（2015/2/8）
- 緩和ケア普及啓発イベント

  大阪（2015/2/11）
- ポスターの制作
- 緩和ケア研修会修了者用バッジの制作

Orange Balloon Project®

プレスセミナーについて

厚生労働省委託事業
緩和ケア普及啓発事業

JSPM
日本緩和医療学会

Orange Balloon Project

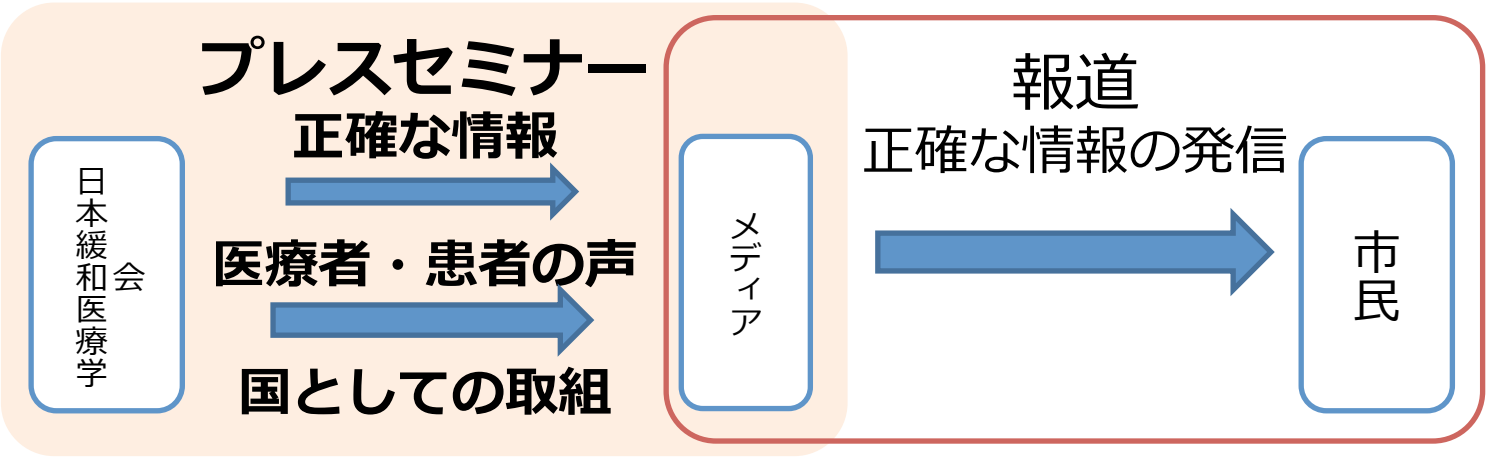
プレスセミナー（メディア向け勉強会）

【目的】

がん対策推進基本計画の重点課題として挙げられている「がんと診断された時からの緩和ケアの推進」を目指し、緩和ケアに関する正確な情報をメディアに周知し、それを報道してもらうことで、市民に対する普及啓発に繋げる。また本年度実施予定の普及啓発イベント・市民公開講座の広報依頼を行う。

【概要】

緩和ケア担当医だけでなく患者会代表者による患者側の声や、厚生労働省担当者から国としての取り組みについて講演。



●募集方法
テレビ・新聞・雑誌記者・インターネット情報記者に案内状送付
（大阪：171通、東京：230通）
●参加人数
大阪10社10名、東京10社11名

«プログラム»　全体で1時間
１、開会のあいさつ
２、わが国のがん医療における緩和ケアの現状と問題点
３、がん患者会からの声
４、国としての取り組み
がん対策基本計画にある「診断時からの緩和ケア」とは？
がん診療連携拠点病院における緩和ケアの新要件
５、日本緩和医療学会と厚生労働省委託事業の取り組み
本年度の普及啓発イベントの紹介
６、質疑応答
７、閉会のあいさつ

◇プレスセミナーの効果

参加記者による記事掲載
新聞 2件、WEB 11件
合計13件の媒体へ掲載

2014.12.2

「緩和ケア」効果を報告
NPOが啓発セミナー

重い病を抱える患者とその家族に対し、医師が精神的に支える「緩和ケア」に焦点を当てたセミナーが1日、大阪市内で開かれた。医師をはじめ患者支援団体や厚生労働省の担当者が政府や医療の動向を報告。「緩和ケアは病気の時期を問わず受けることができる」と呼び掛けた。

NPO法人日本緩和医療学会(事務局・大阪市西区)が、市民の理解を深めようと開いた。

厚労省は、がん対策推進基本計画の重点課題に「がんと診断されたとき」からの緩和ケアの推進を掲げており、同省の浜卓至氏は2016年3月までに全国約400カ所にある拠点病院で「緩和ケアセンター」の機能を強化する目標を紹介した。

緩和ケアの具体的効果について、同学会の木沢義之副理事長は10年に米国で実施された調査を基に説明。診断時から取り組むとQOL(生活の質)が良好に保たれ、余命が2・7カ月延びると報告した。

緩和ケアの実効性を高めるため、支援団体代表の栄田美枝子氏は、がん告知を受けた後でも相談できる場所の必要性を訴えていた。

緩和ケアの現状と課題を解説する木沢副理事長（左）＝1日午後、大阪市福島区のTKPガーデンシティ大阪梅田

大阪のプレスセミナーの掲載記事

YAHOO JAPAN

トップ | 速報 | 写真 | 映像 | 雑誌 | 個人 | Buzz | 意識調査

国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT・科学 | ライフ | 地域

国内 | 政治 | 社会 | 人

「痛い」と患者が訴えやすい環境を－緩和ケアの普及啓発活動を紹介、池永氏

医療介護CBニュース 12月1日(月)21時5分配信

ツイート 63 | シェア 28

淀川キリスト教病院ホスピス・こどもホスピス病院副院長の池永昌之氏は1日、大阪市内で開かれた日本緩和医療学会のプレスセミナーで緩和ケアの普及啓発活動について講演し、「緩和ケアという言葉を伝えることの難しさを感じている。市民の緩和ケアに対するイメージはそう簡単に変わるものではない」と指摘。緩和ケアという言葉そのものを伝える

記事の掲載については、
Facebookでもお知らせ
緩和ケア.netからも参照

市民公開講座とイベント

厚生労働省委託事業
緩和ケア普及啓発事業

JSPM
日本緩和医療学会

Orange Balloon Project

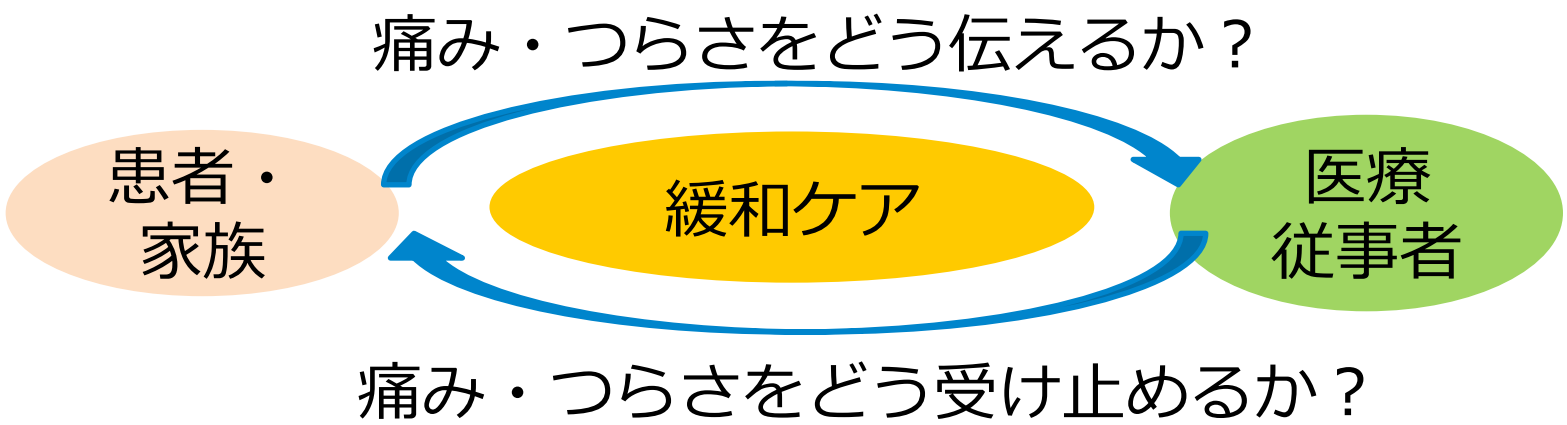
市民公開講座

【目的】

緩和ケアを受けるには患者や家族の抱えている痛みやつらさを医療者に伝えることから始まる。患者・家族の「痛みやつらさをどのようにして伝えればいいか？」また「どのようにして取り除いてもらうのか？」へのコツを提供する

【概要】

医療従事者からの基調講演と、患者・家族　　など様々な立場のパネリストを招きラウンドテーブルディスカッション形式で話し合い、それぞれの今後につなげる



市民公開講座「緩和ケアを誤解していませんか？
～痛みやつらさを医療者に伝えるために～」

2月8日（日）13：00～16：30
会場：ザ・グランドホール品川
«プログラム»
1、開会のあいさつ、来賓のあいさつ
2、第一部：基調講演『緩和ケアの誤解と取り組み』
緩和ケアの誤解と今後の課題
緩和ケアに関する国の取り組み
第二部：基調講演『痛みやつらさを医療者に伝えるコツ』
痛み／心のつらさ／生活・家族の問題／仕事・お金の問題
を医療スタッフに伝えるコツ
3、第三部：ディスカッション『痛みやつらさが伝わるために』
パネリスト：がん治療医、精神腫瘍医、看護師、MSW、患者、家族
4、閉会のあいさつ

- 募集：朝日新聞にて3回募集広告（約300名の参加見込み）
- 採録：実施1か月後に朝日新聞の夕刊全面で講座の様子を掲載

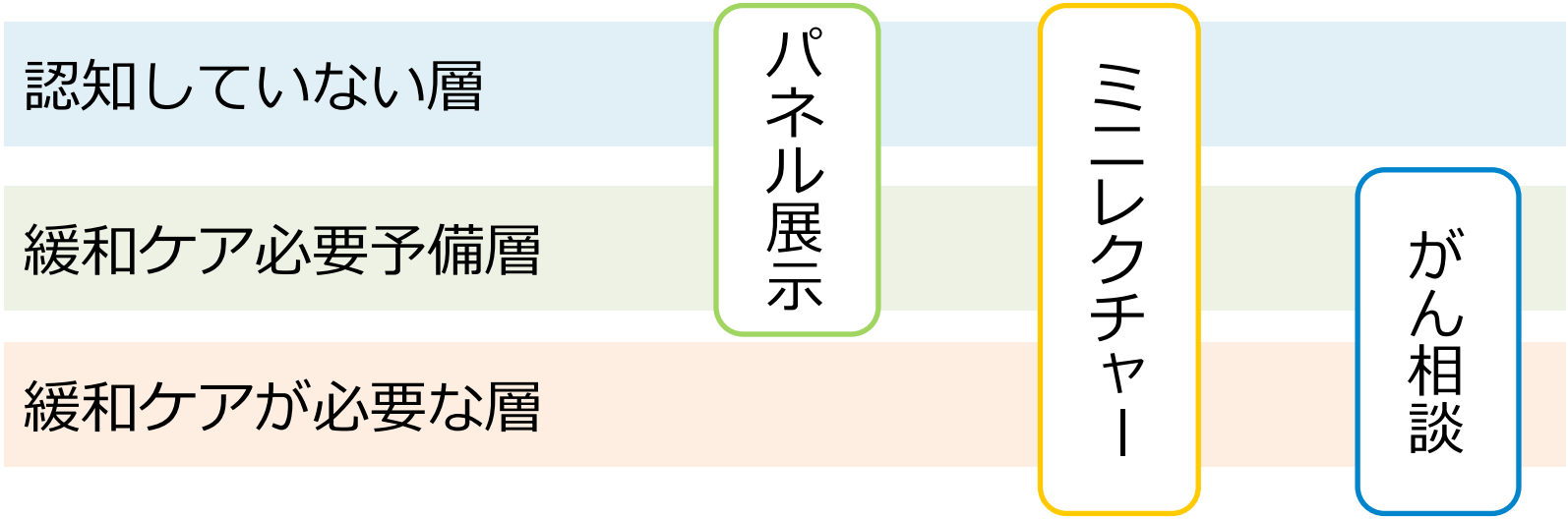
緩和ケア普及啓発イベント

【目的】

「緩和ケア」という言葉と、緩和ケアに対する正しい理解を普及するために、緩和ケアを必要としている方だけでなく幅広い層に周知する。堅苦しく捉えられがちな「がん相談」を身近に感じてもらう機会とする。

【概要】

オープンスペースにてパネル展示・ミニレクチャー・まちかどがん相談などを行い、緩和ケアの存在を普及啓発する



『まちかど「がん相談室」in大阪』

2月11日（水・祝）11：00～18：00（予定）
【会場】グランフロント大阪　ナレッジプラザ

○パネル展示
緩和ケアを知っていただくための展示
○クイズラリー
パネルの随所にクイズを配置し全体を見て回っていただく。最後には景品を渡す。この景品にも緩和医療学会の名前を入れて二次普及効果も図る。（景品：2000個用意）
○ミニレクチャー
1日14回（毎時00分と30分、定員50名
緩和ケアに関する様々な講演を行う
○まちかどがん相談
１回20～50分程度で近畿圏の拠点病院のがん相談センターに協力いただき実施

- 告知：朝日新聞に３回告知を掲載、JR大阪駅のビジョンに広告を掲出
- 採録：実施１か月後に朝日新聞夕刊全面にイベントの模様を掲載

ポスター原案

平成26年度厚生労働省委託事業 緩和ケア普及啓発事業
市民公開講座
JSPM
緩和ケアを
誤解していませんか？
痛みやつらさを医療者に伝えるために
参加費
無料
2015年2月8日(日)
13:00～17:00
会場 品川 ザ・グランドホール
品川駅より徒歩５分、京浜急行品川駅より徒歩８分
主な内容
・痛みを医療スタッフに伝えるコツ
・心のつらさを医療スタッフに伝えるコツ
・生活・家族の問題を医療スタッフに伝えるコツ
・仕事・社会の問題を医療スタッフに伝えるコツ
・がん相談支援センターとは
お申込み方法

平成26年度厚生労働省委託事業 緩和ケア普及啓発事業
オープンイベント
JSPM
がんを恐れない社会をつくるために…
まちかど「がん相談室」in 大阪
あなたのがんに関する心配や不安にお答えします。
2015年2月11日(水・祝)
11:00～18:00
参加費
無料
会場
グランフロント大阪
北館 1Fナレッジプラザ
大阪市北区大深町4-1
出張がん相談室
市民向けミニセミナー
パネル展示スペース
クイズラリー
各種パンフレット配布

ポスター制作に関して

厚生労働省委託事業
緩和ケア普及啓発事業

JSPM
日本緩和医療学会

Orange Balloon Project

ポスター制作の目的

①「緩和ケア」は、積極的ながん治療をあきらめた後に行うものであるとの誤解を解消する必要がある。

②医療従事者に対して、患者の苦痛を拾い上げることや患者の苦痛に対応することの重要性を浸透させ、「医療の常識」とする必要がある。

③多くのがん患者は、苦痛を医療従事者に十分伝えることができておらず、国民全般、特にがん患者・家族への啓発も必要である。

基本的なメッセージ

患者・家族向け

「つらさは我慢しなくてよいです、
いつでもどこでもお話ください」

医療従事者向け

「つらさをやわらげること、
それが医療者の役割です」

両方

「病気に伴う心と体の痛みを和らげること」という緩和ケアの一言表現と共に厚生労働省のロゴも入れる。

現時点でのポスター案（患者・家族向け）

・患者・家族向けなので優しさ重視。

・ブルーが意外に目立ち爽やかさがある。

緩和ケア研修会修了者用のバッジも記載する。

現時点でのポスター案（医療者向け）

・シンプルなデザインでインパクトがある。

・はっきりとしたメッセージでよい

ポスターの配布と効果

日本緩和医療学会

- 診断時からの緩和ケアの推進また、患者が医療者へ苦痛を相談しやすくする為、ポスターを制作する。

全国のがん診療連携拠点病院

- 拠点病院409施設
- 患者用・医療者用各10枚ずつ配布。

拠点病院の患者・家族及び医師

- 苦痛を伝えること（患者）
- 拾い上げること（医師）

緩和ケア研修会修了者用
バッジの制作に関して

厚生労働省委託事業
緩和ケア普及啓発事業

日本緩和医療学会

Orange Balloon Project

バッジ制作の意図

- 患者・家族に対してバッジを装着している医師が厚生労働省の基準に沿った研修会の修了者であることを明確にする。
- バッジを装着している医師のいる病院が、がん診療連携拠点病院の新要件である「患者・家族への情報提供」への施策に取り組んでいることを周知する。
- がん診療連携拠点病院における緩和ケア研修会修了者が本バッジを付け、装着している医師は、苦痛緩和に真摯に対応しなければならないこと、また病院は患者・家族に対し、苦痛を和らげる用意があることを周知する。

<u>バッジのデザイン（右図）</u>

・大きさ（H24.5×W25㎜）

・ネームプレート等に着けても危なくない様樹脂をかぶせるなど加工を施す。

バッジ制作の背景及び意図

- 拠点病院の新要件である「患者・家族への情報の提供」に添い、緩和ケアに詳しい医師を識別できるよう、患者会から要望があった。

患者・家族

医師

- バッジを装着することで緩和ケア研修会修了者であることを明示する。
- 新要件である「患者・家族への情報提供」への施策に取り組んでいることを周知する。

- バッジを装着している医師は厚生労働省の基準に沿った研修会の修了者であることを認識できる。
- また、その医師は緩和ケアに関する専門知識が豊富であることも認識できる。

患者・家族

本日の内容
平成26年度緩和ケア普及啓発事業の取組み

- プレスセミナー（メディア向け勉強会）

  大阪（2014/12/1）、東京（2014/12/10）
- 厚生労働省内記者会見（2015/1/23）
- 市民公開講座

  東京（2015/2/8）
- 緩和ケア普及啓発イベント

  大阪（2015/2/11）
- ポスターの制作
- 緩和ケア研修会修了者用バッジの制作

Orange Balloon Project ®